

アロエベラに新たな美肌効果を

小林製薬

確認、化粧品開発へ

小林製薬はこのほど、近畿大学薬学総合研究所との共同研究から、アロエベラ液汁が皮膚の細胞に分子レベルで作用して美肌効果を発揮することを発見し、8月22・23日に富山県内で開催された「第32回和漢医薬学会学術大会」にて発表した。

300以上の品種があるアロエの中でも、熱帯地方で育つアロエベラの葉肉には、ビタミン類、ミネラル類、酵素類、多糖類、アミノ酸などが豊富に含まれている。

そうした中、同社はアロエベラに健康・美容に高い効果が期待できる素材として研究を進めるとともに、アロエベラから得られる液汁を使用した医薬品や化粧品を展開している。

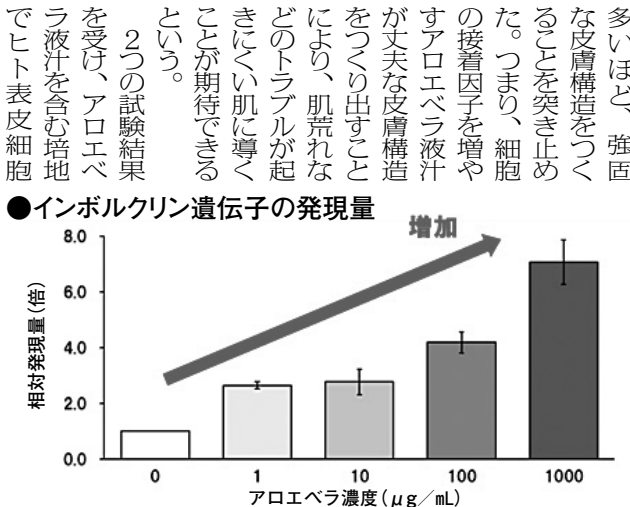
今回の研究により、新

たに「表皮(肌)のターンオーバー促進作用」「細胞接着因子の増加作用」「皮膚の構築作用」の3つの美肌効果が認められ、表皮におけるターンオーバーを促進することが明らかになった。

次に、アロエベラ培地でヒト表皮細胞(アロエベラ濃度100μg/mL)を48時間培養後、糖タンパク質であるインテグリン、カドヘリンの抗体で細胞表面を染色し、発現量をフローサイト解析したところ、2つの糖タンパク質の細胞接着因子が増えることが認められた。

上記の糖タンパク質は、細胞膜に存在し、細胞同士を結合・接着する機能を持ち、接着因子が多いほど、強固な皮膚構造をつくることを突き止めた。つまり、細胞の接着因子を増やすアロエベラ液汁が丈夫な皮膚構造をつくり出すことにより、肌荒れなどのトラブルが起きにくい肌へ導くことが期待できるという。

2つの試験結果を受け、アロエベラ液汁を含む培地でヒト表皮細胞



おむつの形状が乳幼児に与える影響を

ユニ・チャーム

評価

ユニ・チャームは、名動は、脳の、特に前頭葉古屋大学大学院環境学研究所の大平英樹教授と共同で、乳幼児の「はいはい期」でのおむつ交換時の形状による交換時における乳幼児の心拍変動性と母子の行動コーンツ型」といった紙おむつの形状があり、「はいはい期」における乳幼児と母親の相互作用へ与える影響について、まだ解明されていないことが多く、また、そうした研究はほとんどなされていないという。その1つに「ユニ・チャームグループ」と名古屋大学大学院の大平英樹教授との共同で、「はいはい期」の乳幼児を対象とし、おむつの形状による交換時におけるリラックス状態への効果に焦点を当て、自律神経系指標となる心拍変動性と、母子の行動を測定して分析。研究は、2015年3～4月、7～12カ月の合計16人(男児7人、女児9人)の乳幼児を対象にして、そのうちビデオ解析は母子8組で実施した。

その結果、テープ型と比較してパンツ型おむつでは、交換時、乳幼児の動きが抑制されていないことが確認できた。また、心拍変動性からリラックス状態を解析したところ、パンツ型おむつの交換時は、テープ型と比較して乳幼児がリラックスした状態であることも確認した。

おむつ交換時の母子の行動コーディング解析では、パンツ型おむつの交換は、テープ型と比較して、乳幼児のネガティブな声や動作がともに約5割減少し、母親のネガティブな声は約8割、ネガティブな動作は約6割減少することが確認できた。

で、肌のバリア機能を高め、皮膚の細胞が整ったキレイな肌へ導くことが期待できると結論づけている。

と母親の相互作用へ与える可能性があるという。そこで同研究では、ユニ・チャーム生活科学研究グループと名古屋大学大学院の大平英樹教授との共同で、「はいはい期」の乳幼児を対象とし、おむつの形状による交換時におけるリラックス状態への効果に焦点を当て、自律神経系指標となる心拍変動性と、母子の行動を測定して分析。研究は、2015年3～4月、7～12カ月の合計16人(男児7人、女児9人)の乳幼児を対象にして、そのうちビデオ解析は母子8組で実施した。

たが、現在のようにここまですべて一般的に浸透したのは、健康習慣をファッショナブルにトレンドとして発信していたからこそ。先日訪れた際も、オフィス街は「青汁バー」「ジュースバー」の軒数やスーパーに並ぶ同アイテムの種類が、昨年訪れた時よりも一気には増え

NYも日本もこれまでと違うのは、「何を食べるか?」「何を採るか」という身体に「入れる」「行為よりも」「クレンジングする(洗浄する)」「デトックスする」といった「身体か

高齡化を迎えた現代において、女性に限らず男性も「現役時代」がどんどん長引いてきています。見た目の若々しさを求める人も多くなります。長く生きていけば、当然「不要物」「毒素」も溜まっていきます。病気のリスクも高まることもあり、「栄養を採る」ことよりも、美味しいものを食べるという楽しい欲求を満たしながらも、長年蓄積された「毒素」は出したいというニーズは高まり、「老廃物」を「しっかりと排出させる」為のメソッドはまだまだ過熱していくのではないのでしょうか。

今日から試せる! PR&販促講座

VOL.15

「採る」トレンドから、「出す」トレンドへ。～飽食時代のインナービューティーは次なるステージへ

松下令子 (まつしたれいこ)

美容専門PR・販促支援会社 株式会社DSプロモーション 代表取締役
「自分が顧客だったら何を助けてもらいたいのか?」をスタッフ一同の視点にして、PR・販促支援サービスを展開。美容皮膚科等とのパイプも強く、テスター設置活動など独自の販促支援事業が好評。今年度より同販売網を活用して物販事業を開始。「当連載では、販促やPRに生かすヒントとして生活者の美容意識や購買行動の視点から分析していきます。」
【株DSプロモーション】http://www.ds-p.net/ TEL: 03-3453-8163



10月末日までミラノ万博が「食」をテーマに開催中ですが、この「食」を現代の美的トレンドの観点で取り上げていきたいと思っています。先般の国際展示場で行われたダイエット&ビューティーを見学しましたが、全体を通じて「水素」や「酵素」といった代謝を上げたり、血行や巡りをよくする点に着目したライオンナップが例年に増して多かったように思います。

最近も女性誌では、「水素で美活」「ファスティング美容」なるキヤッチやタイトルが女

性誌の誌面を飾る機会が増えてきました。「ジュースクレンズ」といったアイテムも、美容知識に詳しいオピニオンリーダーだけでなく、一般女性にも広く知られるようになってきました。

今、インナービューティーが新たな局面にきているように感じます。先日、夏季休暇でニューヨークに行ってきたのですが、「ジュースクレンズ」「デトックス」といった美容トレンドはどちらが本場です。もともと、日本にも「断食」「解毒」などの概念はありまし

たが、現在のようにここまですべて一般的に浸透したのは、健康習慣をファッショナブルにトレンドとして発信していたからこそ。先日訪れた際も、オフィス街は「青汁バー」「ジュースバー」の軒数やスーパーに並ぶ同アイテムの種類が、昨年訪れた時よりも一気には増え

NYも日本もこれまでと違うのは、「何を食べるか?」「何を採るか」という身体に「入れる」「行為よりも」「クレンジングする(洗浄する)」「デトックスする」といった「身体か

高齡化を迎えた現代において、女性に限らず男性も「現役時代」がどんどん長引いてきています。見た目の若々しさを求める人も多くなります。長く生きていけば、当然「不要物」「毒素」も溜まっていきます。病気のリスクも高まることもあり、「栄養を採る」ことよりも、美味しいものを食べるという楽しい欲求を満たしながらも、長年蓄積された「毒素」は出したいというニーズは高まり、「老廃物」を「しっかりと排出させる」為のメソッドはまだまだ過熱していくのではないのでしょうか。